



これを式で表現すると  $\omega$  を一定に変化させるため  $\phi$  の変化分を考慮にいたれた場合

$$\sum_{i=1}^n B(\omega)_{1130} = \sum_{i=1}^n W_i B(\omega)_{980} = \sum_{i=1}^n W_i B(\omega)_{11000}$$

顕著な変化をする周波数成分 100, 1300,  $\omega = 200\pi$ ,  $2600\pi$  に対して加算回数 980 回で  $W$  は 0.70, 0.20 加算回数 1000 回ではほぼその中間値を得ている。

4 考察

ABR の一般的な波形の式を  $\sum_{i=1}^n W_i B(\omega)_i \exp(j\omega_i t + \phi_i)$

と考えると重み  $W_i$  を学習させているが  $\phi$  の動向については加算回数に対応する顕著な変化は確認できていない。ABR の非線形特性上の要素であると考えられるが検討中である。

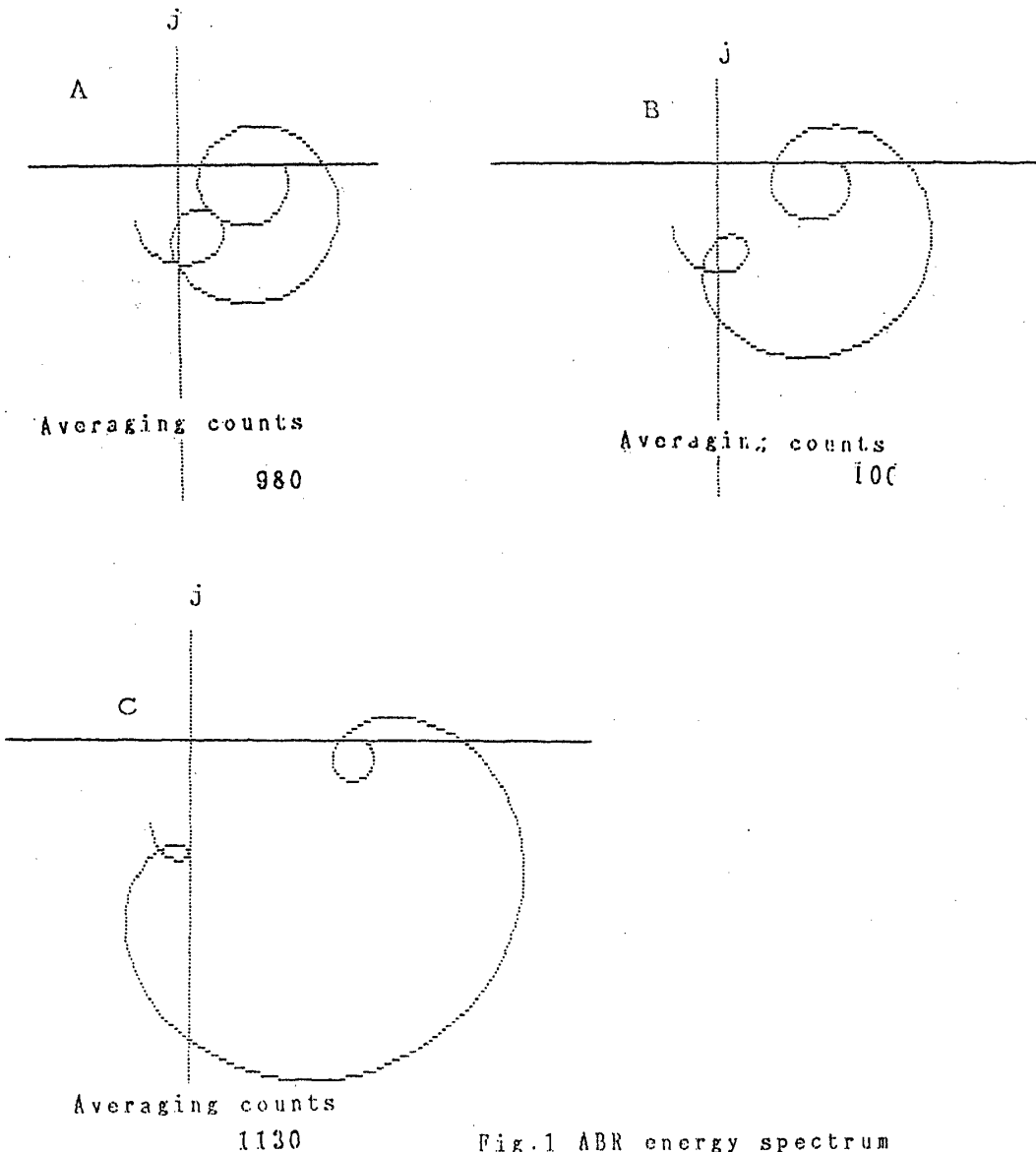


Fig.1 ABR energy spectrum  
20Hz 0.1ms 80dB